

開講年度	令和8年度	開講課程	博士前期課程
授業名	生体分子解析学特論		
開講キャンパス	紀三井寺	教室	基礎教育棟3階講義室2 中講義室304
科目区分	ベーシック科目	配当年次	1年次
必修・選択の別	選択	単位	1単位
対象学生	—	使用言語	日本語
キーワード	質量分析法、ゲノム・オミックス解析		
担当教員 (下線：科目責任者)	医	教授 橋本真一、教授 茂里 康	
	薬		
授業の概要	生命医療科学研究の最も基本となる生体分子解析学及び分子病態解析学の知識・実験技術等について、質量分析法・分光分析法・構造決定法、ゲノム・オミックス解析手法を中心に幅広く学び、基礎的知識を修得する。		
到達目標	<input type="checkbox"/> 質量分析法・分光分析法・構造決定法等の分析・解析についての基本原理を説明できる。 <input type="checkbox"/> ゲノム医科学の基礎を理解する。		
授業計画	1. 2. 分子病態解析法論 (橋本真一/2回) 【7/30 6限・7限】 ゲノム関連の悪性腫瘍、炎症疾患、感染症などについての最新のゲノム関連論文、解析法を紹介しながら概説する。 3. 4. 各種質量分析法の分析原理 (茂里 康/2回) 【9/3 6限・7限】 5. 6. 各種分光分析法の分析原理 (茂里 康/2回) 【9/10 6限・7限】 7. 8. 生体分子の各種構造決定法の分析原理 (茂里 康/2回) 【9/17 6限・7限】 タンパク質等の生体分子の構造・機能に関する解析法の基本的原理及び最近の技術開発動向について考察する。		
授業の方法・形態	講義を中心とする。 遠隔会議システムを利用した同時配信を行う。		
使用するメディア	パワーポイント等によるスライド資料を使用する。		
成績評価の基準	授業への取組20% (発問に対する応答や発言内容、主体的・積極的な受講姿勢) 及びレポート80%によりS (90点以上)、A (80~89点)、B (70~79点)、C (60~69点)、D (59点以下) の5段階で評価し、C以上を合格とする。		
授業時間外の学修に関する指示	教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。		
オフィスアワー (学生からの質問事項等への対応)	担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。		
教科書・参考書	【教科書】 特に指定しない。 【参考書】 授業計画1・2 「ゲノム 第4版」原著者：T. A. Brown 監訳：石川冬木、中山潤一 出版社：メディカル・サイエンス・インターナショナル 授業計画3~8 「物理系薬学Ⅲ (スタンダード薬学シリーズⅡ-2) 機器分析・構造決定」編集：日本薬学会 出版社：東京化学同人		